

病虫害発生予察特殊報 第6号

作物名：ブルーベリー
病名：ブルーベリー白紋羽病（仮称）
病原菌：*Rosellinia necatrix*

1 発生確認経過

平成20年に北信地方、平成21年に東信地方のブルーベリー生産ほ場において、葉の小型化、早期落葉、新梢の生育不良等の樹勢衰弱を伴い枯死に至る症状が発生した。県果樹試験場で原因究明を行ったところ、*Rosellinia necatrix*による白紋羽病であることが判明した。

本病原菌は極めて多犯性で、数多くの植物に寄生するが、ブルーベリーでの発生は国内初確認である。

2 病徴と診断・発生生態

- (1) 地上部では、葉の黄化、早期落葉、新梢の生育不良等の樹勢衰弱がみられる（図1）。
- (2) 地下部の主幹や根部に腐敗が生じ、根部表面には白色～灰白色、綿毛状の菌糸束が確認され（図2、図3）樹皮下には白色の扇状菌糸束が認められる場合もある（図4）。
- (3) 菌糸を光学顕微鏡で観察すると、隔壁付近に洋ナン状の特徴のある膨らみ（図5）がみられるので、診断のポイントとなる。
- (4) 根部の腐敗は木質部まで達する場合があります、腐敗が著しい場合は枯死に至る。
- (5) 本病原菌は、罹病根や粗大有機物に寄生している菌糸等が残存して、長期間土中に生存する。
- (6) 一般に、本病原菌の感染初期には地上部に異常は認められず、地上部に症状が現れた時には手遅れになることが多いとされている。

3 防除対策

- (1) 早期発見に努め、発見した場合は、直ちに抜根して焼却処分する。掘り起こした周辺の土壌は、除去して新しい土壌と入れ替える。
- (2) 一般に、樹勢が衰弱した樹に発生が多くなるので、肥培管理等に留意し、健全樹勢の維持に努める。
- (3) 本病の予防のため、「果樹類」で登録のあるカーバム剤（NCS）を、植付け前において使用することが可能である。なお、本剤の使用にあたっては、登録されている使用基準を遵守する。



図1 発生樹の症状



図2 地下部の主幹に発生した菌糸



図3 根部表面に発生した菌糸



図4 腐敗根の樹皮下に形成された菌糸束



図5 洋ナシ状の膨らみを有する菌糸

長野県病害虫防除所
担当：宮島明博（所長）
木曾秀紀（担当）
TEL：026-248-6471（直通）
FAX：026-248-6473
E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp